

<基本情報>

施策名	人と自然との共生を基本とした環境の保全と創造			<input type="checkbox"/> 内部等管理業務	施策コード	03 - 05
計画等の位置付け	総合計画	<input type="radio"/>	未来づくり戦略	<input type="radio"/>	所管部(局)名	環境生活部
	地域重点	<input type="radio"/>	特定分野別計画	<input type="radio"/>		作成責任者名
	ア以外	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	照会先グループ	生物多様性保全課生物多様性保全グループ
					・内線	内線(24-361)
					関係課名	生物多様性保全課 エゾシカ対策課

<計画: Plan> 業務目標の設定: 各部署が実施

1 業務目標及び今年度の取組	(1)業務目標 [当該施策分野において目指すべき具体的な姿]	(2)今年度の取組 [予算や組織改編等への反映状況]
	<ul style="list-style-type: none"> 北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づき、外来種による影響の防止など条例で示す取組を着実に推進していく。 漁業被害をもたらしているアザラシ類への対策など野生鳥獣の適正な保護管理のための取組を推進する。 知床世界自然遺産など優れた自然環境地域の保全と自然公園の適切な利用に向けた取組を推進する。 愛がん動物の愛護と適正飼養の推進する。 北海道エゾシカ対策推進条例に基づき、年度別・地域別の捕獲目標を定めた捕獲推進プランを着実に実行していく。 エゾシカの個体数管理を推進し、農林業や自然植生等への被害の拡大防止・軽減を目指すとともに、エゾシカが有する価値を資源として最大限に活かすため、捕獲個体の有効活用を促進するなど、総合的なエゾシカ対策を遂行する。 	<p><主な取組></p> <p>①希少野生動植物の保護 ②指定外来種の指定及び外来種防除の推進 ③知床世界自然遺産地域など優れた自然環境の保全 ④自然公園の適正な利用のための施設の整備・維持管理 ⑤野生鳥獣の適正な保護管理の推進 ⑥新規狩猟者の育成・確保 ⑦動物愛護と適正な飼養に関する普及啓発 ⑧エゾシカの捕獲対策及び有効活用の促進</p> <p><新たな取組等></p> <ul style="list-style-type: none"> 「北海道アザラシ管理計画」に基づき、ゴマフアザラシ周年定着個体の効果的削減を図るための取組を実施する。 安定した鳥獣捕獲体制を維持するため、捕獲経験の少ない狩猟者を対象にした講習を新たに実施し、捕獲技術の向上を促進する。 効率的手法による捕獲により、エゾシカの生息数の低減を加速化させるため、指定管理捕獲や管理エリア評価選定システムの開発を行う。 有効活用を推進するため、エゾシカの総合的な利活用やエゾシカ肉のブランド化事業を実施する。 高品質のエゾシカ肉を安定的に確保するため、生体長距離輸送の実証モデル事業を実施する。 世界遺産登録10周年(H27)を節目に、「知床」の価値を改めて見つめ直し、この貴重な資産を後世にしっかりとつなげるよう、道や道民の担う役割分担を明らかにする条例や「世界自然遺産・知床の日」の制定検討など「知床メモリアルアクション」を展開する。
2 前年度意見への対応	(1)前年度「改善意見」 [二次政策評価における「5改善意見」の内容]	(2)改善意見への対応 [前年度評価「5改善意見」への対応状況]
	<p>(具体的な意見内容)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 総計 <input type="checkbox"/> 公約 <input checked="" type="checkbox"/> 行財政改革 <input type="checkbox"/> 進捗状況 <input type="checkbox"/> 前年度二次意見 <input type="checkbox"/> 指標設定 <input type="checkbox"/> 重点課題 <input checked="" type="checkbox"/> その他</p> <p>【総計】 「新・北海道総合計画」に掲げる「豊かな自然環境の保全とみどりの環境づくり」の一層の推進を図るため、優れた自然環境の保全や人々と自然とのふれあいの推進に向け、より実効性の高い取組となるよう検討すること。</p> <p>【行財政改革】 鳥獣被害対策の総合的な推進を図る観点から、鳥獣被害対策チームの効果や課題について検証を行った上で、関係各部と十分連携を図りながら、引き続き効率的・効果的な執行体制を検討すること。</p> <p>【その他:人口減少】 人口減少問題への対応の視点を踏まえ、本道の居住環境の魅力の向上に資するよう、豊かな水と森林など美しく豊かな自然環境の保全の推進に向け、より実効性の高い取組となるよう検討すること。</p>	<p>(具体的な主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本道の優れた自然環境の保全とふれあいを推進するため、老朽化等による自然公園施設の整備を進めることとし、H27年度は北海道新幹線開業に合わせ多くの利用者が訪れることが予想される大沼国定公園の整備を行う。 鳥獣被害対策チームでは、関係各部の鳥獣被害防止対策に係る情報・意見交換に加え、構成員が連携して現地での被害実態調査や道民への情報発信などを行い、大きな成果が上がっており、引き続き関係各部がより連携を強化し鳥獣被害対策の総合的な推進を図っていく。 「本道における人口減少問題に対する取組方針」に基づき、本道における豊かな環境を将来にわたり維持していくため、関係法令に基づく行為規制や利用者指導、関係機関等を連携した監視活動、社会情勢の変化に対応した管理計画等の見直しなどにより、知床世界自然遺産など優れた自然環境の保全と適切な利用を推進するとともに、深刻な農林水産業被害や生態系への影響をもたらしているエゾシカなどの野生鳥獣の適正な保護管理のための各種調査や捕獲の推進、条例に基づく指定外来種の規制など人と自然との共生を基本とした取組を進める。

<実行: Do> 施策の推進

平成27年8月1日現在

3 具体の取組	<p>主な取組・実績 ◎: 前年度意見への対応 ○: 主な取組 ●: 主な実績</p> <p>(具体的な主な取組・実績) ※構成事業は別表1のとおり</p> <p>① ○希少野生動植物の保護 ●北海道レッドリストの改訂を推進(H25~)</p> <p>② ◎指定外来種の指定及び外来種防除の推進 ●指定外来種選定に向けた検討会開催(第2回:H27.3開催)</p> <p>③ ○知床世界自然遺産地域など優れた自然環境の保全 ◎「知床メモリアルアクション」として、世界遺産10周年記念式典及び講演会、パネル展を開催(H27)</p> <p>④ ○自然公園の適正な利用のための施設の整備・維持管理 ●H26整備実績 二セコ積丹小樽海岸国定公園(防護柵再整備)、施設維持管理(公衆便所111棟) ◎大沼国定公園(橋梁・トイレ・駐車場等大規模修繕)</p> <p>⑤ ○野生鳥獣の適正な保護管理の推進 ◎「北海道ヒグマ保護管理計画」に基づく生息密度調査等の実施(H26)、「北海道アザラシ管理計画」の策定(H26)及び広域捕獲調査等の実施(H27)</p> <p>⑥ ◎鳥獣被害対策チームによる鳥獣被害の状況把握や各部被害防止対策の情報・意見交換、道民向けパネル展の開催など情報発信の実施(H26~)</p> <p>⑦ ○新規狩猟者の育成・確保 ●狩猟者フォーラムの開催(H26:2回(参加者数220名))</p> <p>⑧ ○動物愛護と適正な飼養に関する普及啓発 ●「新しい飼い主探しネットワーク事業」の実施(H26登録者数:1,482名、譲渡頭数:1,883頭) ◎エゾシカ捕獲対策及び有効活用の促進 ●広域捕獲への支援(H26:3カ所(7市町村))、H26捕獲頭数:13万6千頭(速報値) ●シカの日参加店の拡大(H25年度末:249店舗→H27年6月末:274店舗)、エゾシカウィーク参加店数の拡大(H25:89店舗→H26:102店舗)</p>
------------	---

<評価: Check> 一次政策評価:各部局が実施 平成27年8月1日現在

4 一次政策評価の結果	(1)進捗状況の判定(詳細は、別表2のとおり)											
	① 各成果指標の進捗状況 [左: 指標名、右: 進捗度合]											
	A 定量的指標	1)すぐれた自然地域の面積	概ね順調	2)タンチョウの生息数	順調	3)「アライグマ防除実施計画」の策定市町村数	やや遅れ	4)自然公園利用者数	やや遅れ	5)犬・猫の安楽死処分頭数	順調	
		6)エゾシカ推定生息数(東部)	遅れ	7)エゾシカ推定生息数(西部)	順調	8)狩猟免許所持者数	順調					
	② 総合判定結果		概ね順調									
	区分	進捗度合の指標数						B 定性的指標				
		順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ	計	その他					
	定量的指標	4	1	2	1	8						
	定性的指標					-	-					
	計(比率)	4(50%)	1(13%)	2(25%)	1(13%)	8(100%)	-					
総合判定		○										
(2)課題												
①喫緊の課題 (具体的な内容) ・絶滅のおそれのある野生動植物種の保護や外来種による本道固有の生態系への悪影響を防止する必要がある。 ・自然公園等のすぐれた自然環境を今後も維持しながら利用できるような必要な施設整備・維持管理を行っていく必要がある。 ・農林水産業への被害など人との軋轢をもたらしているヒグマ、アザラシなど野生鳥獣の適正な保護管理が必要である。 ・不適正な飼養や動物への虐待など愛がん動物を巡る問題に対し、適切に対応していく必要がある。 ・捕獲の担い手である狩猟者の減少及び高齢化が進み、捕獲体制を維持するための狩猟者の確保が必要である。 ・エゾシカの捕獲対策の強化により、その推定生息数も減少傾向にあるが、農林業被害額はいまだ高水準であることから、今後も一層の捕獲対策の推進が必要である。 ・エゾシカの有効活用については、特に食肉としての認知や消費の機会は確実に増加しているが、消費者のエゾシカ肉に対する衛生面への不安解消や捕獲個体数に占める食肉としての利活用率の向上が必要である。					②中長期的な課題 (具体的な内容) ・本道の豊かな自然の恵みを将来にわたって享受できるよう、生物多様性の保全や持続可能な利用に向けた取組を総合的に進めていく必要がある。 ・エゾシカの捕獲数増加に伴い、狩猟や有害駆除に適した場所での効率的な捕獲の実施が困難になると想定されるため、生息密度の調査や複数市町村による広域捕獲の実施を推進するなどし、目標捕獲数を維持していくことが必要。 ・エゾシカの有効活用については、安定的な原材料肉を確保するとともに、天然食材であるという魅力を最大限活かした高付加価値化が必要。また、食肉としての利活用のみではなく、多面的な価値に着目し、環境教育などの題材としての活用が必要。							
(3)施策の方向性 [(1)、(2)を踏まえ、取組の強化、改善などの方向性を記載]												
(対応方針)												
A	・外来種による影響の防止、希少野生動植物種の保護など北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づく取組を着実に推進											
B	・知床世界自然遺産など優れた自然環境の保全と自然公園の適切な利用に向けた取組を推進											
C	・漁業被害をもたらしているアザラシ類への対応など野生鳥獣の適正な保護管理のための取組を推進											
D	・北海道ヒグマ保護管理計画に基づき、人とヒグマとのあつれきの軽減を図りながら、ヒグマ地域個体群の存続の両立を図るための施策を推進											
E	・動物愛護精神の普及啓発など愛がん動物の愛護と適正飼養の推進											
F	・新規狩猟免許取得者の確保及び捕獲の担い手である人材育成を推進											
G	・エゾシカの捕獲対策について、今年度実施する「エゾシカ指定管理捕獲等加速化モデル事業」の結果などを活かし、第4期北海道エゾシカ管理計画の達成に向け年度別・地域別の目標を定めた捕獲推進プランを着実に実行。											
H	・エゾシカの有効活用について、囲いワナを積極的に活用する取組などを支援することで安定的な原材料を確保するとともに、一定の基準に基づいた安全性や品質の確保に取組む処理事業者を認証する制度の創設を検討。食肉としての利活用以外にも、学校教育や市民講座における環境教育や食育の題材として有効活用を促進。											

<評価: Check> 二次政策評価:知事が実施

5 二次政策評価の結果	改善意見										
	【意見区分】 <input type="checkbox"/> 総計 <input type="checkbox"/> 公約 <input type="checkbox"/> 行財政改革 <input type="checkbox"/> 進捗状況 <input type="checkbox"/> 前年度二次意見 <input type="checkbox"/> 指標設定 <input checked="" type="checkbox"/> 重点課題 <input checked="" type="checkbox"/> その他										
	(具体的な意見内容) 【重点課題】 人と自然とが共生できる自然環境の保全と創造に向けて、捕獲から有効活用までの総合的なエゾシカ対策を通じて、エゾシカの適切な個体数管理を一層推進する取組について検討すること。 【その他【人口減少】】 北海道創生総合戦略を踏まえ、エゾシカの利活用地域モデルの創出に向けて、より実効性の高い取組となるよう検討すること。										

＜改善:Action＞ 評価結果の反映:各部署が実施 平成28年3月末現在

6 評価結果の反映	(1) 予算等への反映 [予算や組織改編等への反映状況]	(2) 改善意見への対応 [「5.二次政策評価の結果 改善意見」への対応状況]
	<p>(具体の主な取組)</p> <p>＜新たな取組等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した鳥獣捕獲体制を維持するため、若手ハンター研修や捕獲技術講習を実施し、地域における捕獲従事者を育成する。 →捕獲従事者育成等事業費(拡充) <p>＜廃止・縮小、見直しを行った取組等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と自然との共生を基本とした環境の保全と創造に関する施策は概ね順調に推進できていることから、事業の効率化や経費の節減を図りながら引き続き施策を推進する。 →自然公園等整備事業費(管理費) →生物多様性保全推進事業費 →鳥獣保護対策推進費 →エゾシカ肉ブランド化事業費 など 	<p>(具体の主な取組)</p> <p>【重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカを効率的に捕獲するために作成したマニュアルに基づき、道自らがモデル捕獲を行うことで市町村の捕獲支援を行い、適切な個体数管理を推進するとともに、エゾシカ肉の消費拡大に向けた「シカの日」の定着促進や、道産ジビエとしてのブランド化に向けた取組など、地域資源としての有効活用を推進する。 →エゾシカ指定管理捕獲等加速化モデル事業費(継続) →エゾシカ肉ブランド化事業(継続) →エゾシカ利活用総合推進事業(継続) <p>【その他:人口減少】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国で圧倒的な捕獲数を誇るエゾシカを、捕獲者とは別の事業者が回収するという、他府県でも例がない新たな回収モデルを確立することで、効率的な捕獲と安定的な原材料確保体制の整備を目指すとともに、回収した個体は食肉加工はもとより、ペットフード等へも利用拡大するモデル事業を実施する。 →エゾシカ利活用推進事業(新規)

成果指標の分析結果

施策名	人と自然との共生を基本とした環境の保全と創造	所管部	環境生活部	
		施策コード	03	05

A 定量的指標の進捗状況

※年度毎の進捗率 目標値c欄の()表示は、経過年としての参考値

指標名(単位)・グラフ	指標の分析				
1)すぐれた自然地域の面積 (ha) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	自然公園(国立公園・国定公園・道立自然公園)及び自然環境保全地域等の面積の合計		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a	903,000	H29
	③、④		現況値b	895,042	H26
			達成率b/a	99%	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	概ね順調
目標値c	(898,430)	(899,344)	(900,258)	(901,172)	
実績値d	895,063	895,042	895,042	—	
進捗率d/c	100%	100%	99%		
2)タンチョウの生息数 (羽) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	タンチョウ生息状況の一斉調査で観察された羽数の3年平均値		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a	1,305	H29
	①		現況値b	1,170	H26
			達成率b/a	90%	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	順調
目標値c	(988)	(1,051)	(1,115)	(1,178)	
実績値d	1,034	1,155	1,170	—	
進捗率d/c	105%	110%	105%		
3)アライグマ防除実施計画の策定市町村数 (市町村) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	外来生物法に基づきアライグマの防除実施計画を策定した市町村の数(累積)		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a	179	H29
	②		現況値b	133	H26
			達成率b/a	74%	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	やや遅れ
目標値c	(128)	(138)	(149)	(159)	
実績値d	117	125	133	—	
進捗率d/c	91%	91%	89%		
4)自然公園利用者数 (都道府県順位) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	自然公園の利用者数の都道府県順位		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a		
	③、④		現況値b		
			達成率a/b	—	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	やや遅れ
目標値c	2位	2位	2位	2位	
実績値d	8位	8位	—	—	
進捗率c/d	—	—			
5)犬・猫の安楽死処分頭数 (頭) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	道及び市町村が引き取った犬・猫のうち、安楽殺処分となった頭数		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a	4,893	H29
	⑦		現況値b	2,353	H26
			達成率a/b	208%	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	順調
目標値c	(6,709)	(6,346)	(5,982)	(5,619)	
実績値d	4,329	3,060	2,353	—	
進捗率c/d	155%	207%	254%		

指標名(単位)・グラフ	指標の分析				
6) エゾシカ推定生息数(東部) (万頭) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	第4期エゾシカ保護管理計画で設定した目標とする推定生息数(各年度設定)。データの蓄積等により、過去に遡って修正している。		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a	10.0	H28
	⑤、⑥、⑧		現況値b	21.0	H25
			達成率a/b	48%	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	遅れ
目標値c	24	21	17	12.0	
実績値d	30	28	24	—	
進捗率c/d	80%	75%	71%		
7) エゾシカ推定生息数(西部) (万頭) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	第4期エゾシカ保護管理計画で設定した目標とする推定生息数(各年度設定)。データの蓄積等により、過去に遡って修正している。		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a	28.0	H28
	⑤、⑥、⑧		現況値b	35.0	H25
			達成率a/b	80%	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	順調
目標値c	35	32	29	28.0	
実績値d	28	26	24	—	
進捗率c/d	125%	123%	121%		
8) 狩猟免許所持者数 (人) 	指標の説明		中長期目標の達成率		
	狩猟者(狩猟免許所持者)数		区分	目標・実績値	年度
	関連する主な取組		目標値a	10,000	H29
	⑤、⑥		現況値b	10,690	H25
			達成率b/a	107%	
年度毎の進捗率				進捗度合	
区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	順調
目標値c	(9,741)	(9,793)	(9,844)	(9,896)	
実績値d	10,215	10,690	—	—	
進捗率d/c	105%	109%			

※単年毎に設定している目標値、毎年同じ目標値となっている指標については、中長期目標の達成率に記載がありません。

B 定性的指標の進捗状況

指標の内容	指標の分析		
	関連する主な取組	当該年度の進捗状況等	進捗度合
2)	関連する主な取組	当該年度の進捗状況等	進捗度合
3)	関連する主な取組	当該年度の進捗状況等	進捗度合

進捗状況の総合判定結果

区分	進捗度合の指標数						総合判定結果
	順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ	計	その他	
定量的指標	4	1	2	1	8		概ね順調
定性的指標					—	—	
計 (比率)	4 (50%)	1 (13%)	2 (25%)	1 (13%)	8 (100%)	—	
総合判定		○					

(総合判定結果に関する特記事項)